まな Ban Ban

研究通信 No. 7
令和6年7月2日（火）
文責：甲

７月に入り、もう一学期が終わろうとしています。皆さんは、この一学期をどうお過ごしですか？バタバタでき つかったな～。思い通りにいかなかったな～。子ども達と過ごして楽しかったな～。などと思われているのではないでしょうか。私は、毎日が必死であっという間だったなと思いました。あと2週間ですが、気合いを入れてラストを楽しく過ごしましょう。

授業実践発表会を夏休みにします！！！

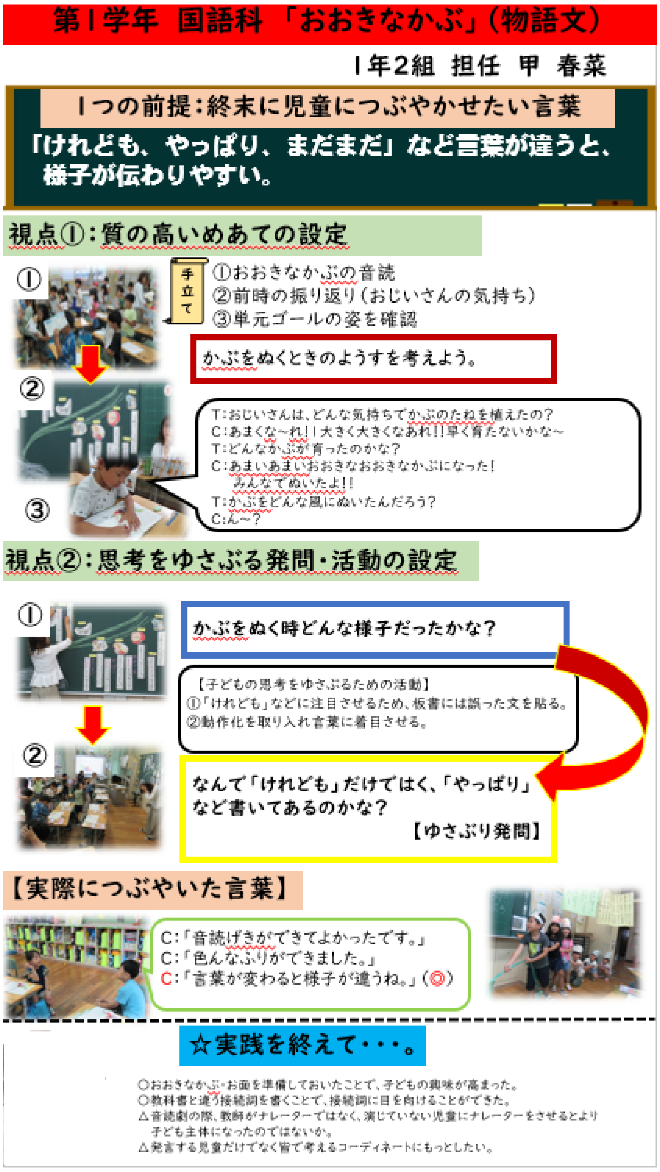
今年も授業実践発表会を行います。昨年の授業実践発表会では、自分にはなかったゆさぶりの発問や導入の工夫などを学ぶことができました。また、自分の実践を振り返る時間となり、もっとこうしたら～と課題にも気づくことができ有意義な時間となりました。

授業実践を通して、1の前提、2つの視点に沿った授業を意識して取り組んでいただき、学びの時間にしてほしいと思います。

R6 校内研修のフォルダの中に授業実践記録のフォーマットを入れています。昨年度の授業実践記録も入れていますので参考にして作成してください。

私もさっそく国語科「おおきなかぶ」で実践記録を書いてみました。接続詞に着目して、様子の変化に気づかせたいという考えで、授業の流れを考えていきました。今回は、「けれども」だけの文と「やっぱり」「まだまだ」などの文を比較させてみました。子ども達は、ゆさぶりの発問に対して、言葉で言いたそうにしていましたが、どう言葉で伝えたらいいのか分からず、、、。体で表していいよと伝え、動作化で発表しました。その後は、接続詞に気をつけ劇をしました。

子どもの実態に沿ったゆさぶりの発問は、難しいなと感じた授業でした。


第1学年　国語科　「おおきなかぶ」（物語文）

1年2組　担任　甲　春菜

1つの前提：終末に児童につぶやかせたい言葉

「けれども、やっぱり、まだまだ」など言葉が違うと、様子が伝わりやすい。

視点①：質の高いめあての設定

① ② ③

手立て
①おおきなかぶの音読
②前時の振り返り（おじいさんの気持ち）
③単元ゴールの姿を確認

かぶをぬくときのようすを考えよう。

T：おじいさんは、どんな気持ちでかぶのたねを植えたの？
C：あまくな～れ！！大きく大きくなあれ！！早く育たないかな～
T：どんなかぶが育ったのかな？
C：あまいあまいおおきなおおきなかぶになった！
みんなでぬいたよ！！
T：かぶをどんな風にぬいたんだろう？
C：ん～？

視点②：思考をゆさぶる発問・活動の設定

① ②

かぶをぬく時どんな様子だったかな？

【子どもの思考をゆさぶるための活動】
①「けれども」などに注目させるため、板書には誤った文を貼る。
②動作化を取り入れ言葉に着目させる。

なんで「けれども」だけではく、「やっぱり」など書いてあるのかな？
【ゆさぶり発問】

【実際につぶやいた言葉】

C：「音読げきができてよかったです。」
C：「色んなふりができました。」
C：「言葉が変わると様子が違うね。」（◎）

☆実践を終えて・・・。

○おおきなかぶ・お面を準備しておいたことで、子どもの興味が高まった。
○教科書と違う接続詞を書くことで、接続詞に目を向けることができた。
△音読劇の際、教師がナレーターではなく、演じていない児童にナレーターをさせるとより子ども主体になったのではないか。
△発言する児童だけでなく皆で考えるコーディネートにもっとしたい。

授業実践記録提出について

締め切り　7月19日（金）まで

提出場所　校内研修（R6）→【12】授業実践記録　**授業実践記録（名前）**で提出お願いします。